

本年度の学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 安全で安心な学校づくり (1) 防災、食の安全、人権への配慮 (2) 教職員の子どもと向き合う時間の確保及び業務の効率化</p> <p>2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 (1) 時代の変化に応じた聾教育の専門性の向上 (2) 主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善 (3) 地域、学校間との連携強化 (4) 令和の日本型学校教育を意識した ICT の積極的な活用</p> <p>3 学校からの発信力の強化 (1) センターの機能の充実 (2) ホームページ、インスタグラム等の活用による情報発信</p>		
<p>担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>
<p>幼稚部</p>	<p>・異年齢集団での活動や社会の変化に応じた指導の充実を図る。</p>	<p>・学年間を越えた活動場면을多く設定することで異年齢との関わりを増やし、協働的な学びや個に応じた指導、支援につなげる。 ・授業や個別指導などの活動単位の工夫を図り、社会の変化に応じた聾教育の専門性の維持向上や保護者支援について考えられるようにする。</p>	<p>・教職員間で密に情報を共有し、子どもの実態に応じた目標設定や指導を行うことができるようにする。 ・様々な働き方の教職員や保護者のニーズに応じられるようにする。</p>
<p>小学部</p>	<p>・個のニーズや社会の変化に応じた教育活動の充実を図る。</p>	<p>・保護者との連絡、連携の機会を大切にし、児童の実態とニーズを把握する。 ・令和の日本型教育と聾教育の専門性の両輪を意識した、授業改善を進める。個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るため、部別研修や参観週間を通して、教員間の情報交換や授業研修を実施する。 ・東海地区聾教育研究大会を契機と捉え、教員のファシリテート力を高めるため、教員自身が研修を通して協働的な学びを行ったり、多様な指導案形式を導</p>	<p>・教員同士が積極的に話し合える雰囲気作りを行い、些細な事柄でも情報共有することによって、主体的な発信ができるようにする。 ・児童や保護者のあらゆる声に耳を傾けると共に、児童の良いところを進んで認め、自信や向上心をもつことができるようにする。 ・教員同士が積極的な授業参観を行い、個別最適な学習、ICTの活用を含めた教材教具、授業展開について、複数で振り返りを行う。</p>

		入したりすることによって、変化やニーズに応える力を向上させる。	
ひがしうら校舎	インクルーシブ教育を進めるにあたり、地域や学校等と連携し、交流及び共同学習を行う。	近隣の保育園、小学校、高等学校（部活動を含む）と交流及び共同学習（校外学習等）をする機会を設定する。 互いに豊かな人間性や社会性を育むために、伝え合う活動、通じ合う活動を交流及び共同学習の中心に位置付ける。	あらかじめ近隣の保育園、小学校、高等学校と連携を密に取り、交流及び共同学習における目的、方法、頻度、効果などについて検討する。 よりよい交流及び共同学習にしていくために、実施後に教職員で活動の評価をする。
教務部	・子どもと向き合う時間を増やすため、業務の効率化を図る。	・出席簿や指導要録作成において、校務支援システムの活用を進め、円滑な運用を目指す。 ・教務に関わる業務についてスリム化を図り、教職員の負担軽減を目指す。	・校務支援システムの運用に関わる質問に丁寧に答えていき、スムーズな活用へとつなげる。 ・形骸化していないかという視点で随時、作成文書等を見直していく。
総務部	・令和の日本型教育を意識したICTの積極的な活用に向けての教育環境の充実を行う。 ・ホームページ、インスタグラム等での情報発信が円滑に進むよう環境設定を行う。	・小学部児童のタブレット活用を促し、教務部と連携してデジタル教科書の活用、授業支援システムの円滑な活用に向けてタブレット端末の登録・調整を行う。 ・ホームページの管理、インスタグラムの登録等を定期的に確認し、希望者の登録や最新情報の確認等をする。	・ICT支援員事業を活用するとともに、小学部研修、授業研修と連動させながら授業力向上のための情報交換を行う。 ・個人情報保護に努めながら、適切な方法や対象を選択する。
研究研修部	・聾教育の専門性の向上を目指し、実践を積み重ねる。	・東海地区聾教育研究会に向けての取組をきっかけとし、それぞれの部で授業研究を深めていく。 ・自立活動分野に重点を置きながら、様々な研修を行い、日々の授業に生かす。	・外部助言者を招き、授業に関する助言をいただき、授業改善に生かす。 ・外部の専門家（言語聴覚士・大学教授）から、自立活動に関する助言を受け、専門性の向上につなげていく。 ・本校とひがしうら校舎の職員が連携を取りながら、主体的・対話的な研修を進め、学んだことを共有していく。

生活指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身を守る力や防災に関する知識と技能を身に付けることができる子どもを育てる。 ・自分や周りのことを考えて行動できる子どもを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの危険を予測・回避し、安全な生活に対する理解を深めることができるような防災教育、避難訓練を行う。 ・児童一人一人の思いや考えを尊重し、いじめや差別偏見のない生活を送るための指導や支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する研修を職員向けに行い、幼児児童にも安全な生活についての指導を行っていく。 ・児童一人一人の思いや考えを尊重した指導を行う。 ・いじめや差別、偏見のない生活を送るための指導や支援を行う。
保健体育部	安全に留意し、健康な生活を送る態度・能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、歯磨き、からだの清潔など基本的な生活習慣について、集会や保健日よりで幼児児童に呼び掛けたり、児童会と連携を図ってポスターを制作したりして、健康に過ごせるように呼び掛ける。 ・けがをしやすい場面や場所について、事前に注意を促すことで安全に過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を継続することの大切さなどについて、掲示物等を活用しながら継続的に指導を行い、健康に過ごすことを意識できるようにする。 ・けがをしやすい場面や場所について、日常的に職員同士で情報交換を行い、予防意識をもって取り組む。
いじめ防止に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対する情報を共有し、学校全体で組織的に指導に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回実施する児童対象の「心のアンケート」により早期発見に心掛ける。 ・「学校いじめ不登校対策委員会」を設置し、情報共有を図りつつ学校全体で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心のアンケート結果の内容を、保護者や学校全体で周知し児童の抱えている問題点を共有する。 ・職員にいじめ認識調査や研修会などを行い、いじめ防止に向けた理解を深めていく。
多忙化解消に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の在校時間の適正化、健康障害防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日（午後6時施錠）を毎週金曜日に設定するとともに、授業日の午後7時の施錠を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を時間どおりに開催し、時間内（45分間）に終わるようにする。 ・校務支援システムを積極的に活用する。 ・校務支援員・校務補助員へ業務依頼について周知して活用する。
学校関係者評価を実施する主な項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 安全で安心な学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・防災、食の安全、人権への配慮について ・教職員の子どもと向き合う時間の確保及び業務の効率化について 2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に応じた聳教育の専門性の向上について ・主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善について ・地域、学校間との連携強化について 		

	<ul style="list-style-type: none">・令和の日本型学校教育を意識した ICT の積極的な活用について <p>3 学校からの発信力の強化</p> <ul style="list-style-type: none">・センター的機能の充実について・ホームページ、Instagram等の活用による情報発信について
--	--